

平成30年度宇部市立小・中学校教職員人事異動方針

宇部市教育委員会

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成のためには、地域とともにある学校づくりや特色ある学校づくりを推進し、社会総がかりで教育力の向上を図ることが必要である。

このため、各学校においては、山口県教育委員会が定めた「教職員人材育成基本方針」に基づき、教職員一人ひとりがそれぞれの資質能力の向上を図り、専門性を発揮しながら、「学び合い」のある授業づくりによる確かな学力の育成や体力の向上、生徒指導の充実、キャリア教育の推進などの諸課題に組織的かつ適切に対応できるよう、下記の点を踏まえ、厳正に人事の刷新を図り、全市民的な視野に立って、適材を適所に配置する。

記

- 1 各学校の教職員については、専門性や現任校での勤務年数及び教職員構成等の観点から検討し、適切な配置を進める。
なお、同一校勤務が、7年を超える者については原則として異動を行う。
- 2 教員としての多様な経験を積むことや教員相互の研修を深めることができるよう、小・中連携を中心に異校種間の人事交流を推進するとともに、規模の異なる学校間での交流や他市との研修交流を積極的に行う。
また、同様の観点から、宇部市内3つの学校群において、全ての学校群での勤務を一度は経験することを原則とする。
- 3 新規採用者については、学校の育成環境等を踏まえ、実践的指導力を高めることができるよう、計画的な配置を行う。
- 4 校長、教頭等の管理職の配置に当たっては、学校課題の解決に向けて、適材適所の配置ができるよう、県教育委員会と十分に連携することとする。

平成30年成人式

1 日時・会場

- (1) 日時 平成30年1月7日(日) 13時から15時まで(予定)
- (2) 会場 宇部市渡辺翁記念会館

2 対象者

- (1) 平成9年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた人で、本市の住民基本台帳に記載のある人
対象者数(平成29年12月1日現在)
男性 847人 女性 744人 合計 1,591人
- (2) 市外に転出された方で出席を希望する人
申込者118名(平成29年12月15日現在)(例年140人程度申込)

3 成人式事業受託者 (一社) SAKI-DORI プロジェクト

公募型プロポーザル方式により受託候補者を選定して契約を締結

4 内容

- (1) 式典 13時から13時30分
 - ① オープニング
 - ② 未来へのメッセージ(小中学生)
 - ③ 国歌斉唱
 - ④ 宇部市長式辞
 - ⑤ 宇部市議会議長祝辞
 - ⑥ 二十歳のメッセージ
 - ⑦ エンディング

(中間タイム:映像放映)

- (2) アトラクション 13時40分から15時(予定)

- ① オープニング
- ② 二十歳のファッションショー(公募)
- ③ エンディング

8 来賓への案内(12月上旬)

- (控室有) 市議会議長、商工会議所会頭、社会福祉協議会長、自治会連合会長、婦人協議会会長、市子連会長、スポーツ少年団指導者協議会会長、市議会副議長、文教民生委員会正副委員長、
- (控室無) 市議会議員、社会教育委員、スポーツ少年団指導者、私立中学校長、市立中学校長

見初小学校の適正配置に関する市教委の考え方

1 平成22年4月 「宇部市小中学校の適正配置に向けた方針」作成

【市街地ブロックの小学校】

適正配置の検討基準	1～5学級 (複式学級が存在)	全体数で90人以下 (1学級あたり15人以下)	全体数で120人以下 (1学級あたり20人以下)
協議会の設置目的	統廃合を始めとする適正配置計画を2年以内に策定し、その後実施に向けて着手しなければならない。	統廃合を始めとする適正配置計画について検討を開始しなければならない。	適正配置について協議会を設置し、協議を行うことができる。
基準設置の根拠	昭和59年旧文科省作成の学校規模の「過小規模」に該当。	40人学級(当時)の約3分の1の数を切ることを目安。	40人学級(当時)の半数を切ることを目安。

※「これからの学校施設づくり」(昭和59年旧文部省作成) 参考

旧文部省は、学級数による学校規模を次のように分類している。

- ・過小規模 1～5学級
- ・小規模 6～11学級
- ・適正規模 12～18学級(統合した場合、19～24学級も適正規模)
- ・大規模 19～30学級
- ・過大規模 31学級～

2 見初小学校の統合を進める理由

○見初小学校が適正配置の検討基準に該当していることから、平成22年7月に「宇部市立見初小学校の適正配置に係る関係校区協議会」を設置

→ 保護者アンケートの結果、学校統合に賛成が反対を大きく上回る

賛成36(46%) 反対6(8%) どちらともいえない31(39%) その他3(4%)

(当時懸念された状況)

児童数のますますの減少 平成21年度145人 → 平成27年度118人(当時の推計)

(学校統合を望んだ地域の意見)

- ・子どもたちの人間関係づくりにおいて、クラス替えのない1学年1学級は問題がある。
- ・PTA活動において、一人当たりの仕事量が増える。
- ・校区を考えずに、教育環境を考えていきたい。

(教育委員会の考え)

- ・多様な意見に出会う機会が限られる、多様な指導形態がとりにくい、スポーツや合唱のような集団学習の実施が困難になるなど、教育環境に制約が生じる。
- ・クラス替えができないなど、人間関係に広がりがない。
- ・保護者一人当たりの負担が増すとともに、行事等の運営に限界が生じる。
- ・統合を望む地域の声に応えたい。

→ 見初小学校の適正配置に向けて学校統合を進めていく。